

令和4年度

第1回茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会

会議録

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回 茨木市認知症初期集中支援チーム検討委員会
開催日時	令和4年6月29日（水）午後2時～午後2時50分
開催場所	オンラインミーティング（Zoom）
委員長	杉野委員
副委員長	山田委員
出席者	<p>【委員会委員】 中島委員、岡田委員、加藤委員、太田委員、 山田委員、井澤委員、山内委員</p> <p>【市職員等】 健康づくり課：永友健康増進係長 長寿介護課：竹下課長 福祉総合相談課：澤田課長、中村東保健福祉センター長、笹川 （チーム員）松岡 （地域包括支援センター）古川（太田・西河原） 加藤（大池・中津） （認知症地域支援推進員）高橋、矢野</p>
欠席者	杉野委員、長村委員、奥田医師（チーム専門医）、 中林保健師長（チーム員）
傍聴者	2人
報告事項 議題（案件）	<p>1 報告事項 （1）令和3年度認知症初期集中支援チームの活動実績について （2）茨木市の高齢者と認知症について</p> <p>2 その他 今後の予定・連絡事項等</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者一覧 ・資料1 令和3年度認知症初期集中支援チームの活動実績 ・資料2 茨木市の高齢者と認知症
その他	<p>本会議では、以下の略称で表記している。</p> <p>チーム：認知症初期集中支援チーム 検討委員会：認知症初期集中支援チーム検討委員会</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局(笹川)	開会 ただいまより、令和4年度第1回認知症初期集中支援チーム検討委員会を開催いたします。 オンライン開催にあたっての注意事項、開催時間（1時間）説明。
澤田課長	福祉総合相談課長挨拶 挨拶
事務局(笹川)	資料確認
山田副委員長	出席委員の確認
事務局(笹川)	本日は、検討委員会委員9人中7人の出席をいただいております。過半数の出席がありますので、本委員会規則により会議は成立しております。
山田副委員長	委員会の公開の取り扱いについての確認 会議については原則公開とし、個人に関する情報を取り扱う議題については非公開。
事務局(笹川)	本日は個人情報を取り扱う議題は予定なし。 会議録作成のために録音を行う。
	1 報告事項 (1) 令和3年度認知症初期集中支援チームの活動実績について
事務局(松岡)	資料1 説明
山田副委員長	ここまでの説明について質問等あればお願いします
太田委員	相談ルートの中で茨木市にかかってくる電話というのはどの部署にかかってくることが多いのか。
事務局(松岡)	福祉総合相談課にかかってくる場合が多いが、一定数は市の代表にかかり福祉総合相談課に繋がっている。
太田委員	では、市では認知症の相談についてチームに繋ぐという体制ができている状況なのか。
事務局(松岡)	基本的にそのとおりである。

山田副委員長	<p>他はいかがか。</p> <p>私からもお伺いしたい。認知症相談の認知症疑いというのは、具体的にどんな行動が傾向として多いのか。</p>
事務局 (松岡)	<p>相談内容は、もの忘れが増えた、同じ話を何度も繰り返す、等が多い。そこからこれは認知症か、これからどうしたらいいのか、という相談になる。</p>
山田副委員長	<p>大きなトラブルが起こってというよりは、今言われたことから相談が舞い込むことが多いということか。</p>
事務局 (松岡)	<p>そのとおりである。</p>
山田副委員長	<p>他はいかがか。</p> <p>特に質問、意見がないようなので、以上とする。</p>
	<p>1 報告事項</p> <p>(2) 茨木市の高齢者と認知症について</p>
事務局 (松岡)	<p>資料2 説明</p>
山田副委員長	<p>ここまでの説明について質問等あればお願いします。</p>
井澤委員	<p>コロナ禍でケアマネジャーとしてこの1年間高齢者に関わった中で、高齢者の居場所や趣味の教室に通っていた方が通えなくなり、またコミュニティデイハウスも一時閉鎖になり、集える場所がなくなった。その結果、身体的に衰え、ひどい方であれば認知症の進行を感じる方もいた。一方で、連日のコロナのニュースで、関わりをすごく控えられ、家族やケアマネジャーの訪問も控えて欲しいと希望される方もおられる。自身から相談に行ける方がいる一方で、相談できない方もいると思うので、外側からの窓口が連携をとる、他機関との連携を強化していくことは大事と感じる。</p>
山田副委員長	<p>他はいかがか。</p>
岡田委員	<p>後期高齢者75歳以上の受診率について、医科受診96%に対して、歯科は少なく59%ぐらい。歯周病と認知症の関係とかも言われている通り、もう少し受診を増やす方法はないか。どのような連携をしたら歯科の受診が上がるか、意見があれば教えてほしい。</p>
山田副委員長	<p>岡田委員より受診や歯科医院と繋がる方策について質問があったが、いかがか。</p>
事務局 (永友)	<p>健康づくり課は歯科検健診の受診勧奨をしっかりとやるようにしている。今年度もチラシの配布等を進めており、小学生の保護者にも健診勧奨していくような対策をとりつつある。</p>

山田副委員長	他はいかがか。
太田委員	令和2年度のデータということで、コロナ禍もあり、歯科という顔が近すぎることもあるので、コロナ禍による一過性のものなのかどうか、コロナ禍以前と比べないとわからない。この状況が続くのか見たいと思う。
山田副委員長	在宅系の利用者について、内科の病気については病院先等アドバイスをするが、歯の悪い方のアドバイスについては十分ではなかったかもしれない。そういう場合には歯の重要性を伝え、歯科受診をもう少し積極的に勧めていくことも必要かと改めて感じた。
事務局(中村)	<p>歯の直接的なことではないが、いばらき体操の中で健口体操といって口のことについて紹介している内容もあるので、地域の中で体操を通して口腔のことに興味をもってもらえるような取組をしている。</p> <p>井澤委員から発言があった、「外側からの」というところについては地域での見守りだと思う。現在は民生委員等から「この人心配だ」「あまり顔を見なくなった」という声が、直接チームにくるというよりは、まず地域包括支援センターやCSWにきて、そこからのチーム介入というケースもある。やはり地域の見守りの目、多機関との連携というのは大事だと思う。</p>
山田副委員長	今日は特に歯科関連の意見が多いが、中島先生、ご意見いかがか。
中島委員	診療所の場合、認知症というのはなかなか診察室ではわからない。我々は疾患のことを聞くので、日常生活のことは聞かない。認知症を疑って診察するのではなく、他の慢性疾患を疑いながら診察するので、なかなか診察中はわからない。受付やスタッフの方がよくわかる。例えばお金のやりとりとか話をする中で、受付スタッフが変化に気づくこともある。だから、医師、歯科医師だけではなく、看護師も含めた医療スタッフへも啓発して、気を付けていくのも大事ではないかと考えている。
山田副委員長	薬剤師会の加藤先生からもいかがか。
加藤委員	<p>早期の拾い上げをどこでやっていくのかというのもずっと課題だと感じている。</p> <p>コロナ禍で、認知症カフェがあまり開催できていないようであれば、認知症の人やその家族の関わりの方や、これから自分の家族が認知症になったらどうしたらいいのか周知していく場が減り、早期の拾い上げが難しいところもあるかと思う。</p> <p>薬局としては、利用者に対して市やチームの配布物等を用意して、啓発ができたらいいかと思っている。</p>
山田副委員長	日ごろから関わりや啓発活動もしている地域包括支援センターや認知症地域支援推進員もいかがか。

大池・中津加藤センター長	<p>地域包括支援センターでは、認知症かもという地域の方について民生委員、それから診療所の医師から相談を受けることが多いが、家族や本人が認知症かもという疑いの時点では受け入れられない方が多く、医療に繋げることが難しく時間がかかることが多い。特に、歯科医に繋げるとは、口の中を見せていただくまでが大変。食事が取れなくなるや味覚がわからなくなる等の症状が出てくれば繋がりやすいし、デイサービスであればケアをしているところを自然と見ることはできる。しかし、自宅訪問や、初回のアセスメントで口の中を知るとは難しく、家族でも両親の口の中の状態を知らないことがすごく多い。さらに、女性は特に口を見せてと言ってもどうぞと口を開ける方はほばいないので、信頼関係を築いていかないと繋げていけないと思う。</p> <p>あとは地域住民から、同じ物を購入しているとか新聞を取り入れていないとか些細なことでも情報をもらえた時は、多職種と連携をとって支援を検討したいので、地域の中でのネットワークをつくっていくことが、今一番大事と思っている。</p>
矢野推進員	<p>加藤委員の話から、認知症カフェ（いばらきオレンジかふえ）について。現在23か所登録があり、コロナ禍で閉めている所もあるが今は16か所以上開催している。その中の4か所は、井澤委員の所も含め新しく開所された所である。</p> <p>中島委員の受付の方が一番情報を早くに知っているという話があったが、カフェの参加者が自らを「私、認知症」と言う方はいないが、認知症サポーターが認知症カフェ（いばらきオレンジかふえ）のスタッフをする際に、何かちょっと様子が心配だと言ってサービスに繋がったケース等もある。</p> <p>岡田委員からの歯科の連携について。昨年度、家族介護教室を4回開催し、うち1回を認知症予防と口腔ケアという内容で実施したところ、専門職も含む人数だが30人以上の参加者があった。認知症予防や認知症になっても進行を緩やかにするという事は皆意識している中で、歯の健康が認知症予防にもつながることがよく分かったというアンケート結果があった。</p> <p>茨木市認知症地域支援推進員で9月以降になるが啓発イベントも企画している。三師会の協力をいただき、地域に向けての啓発活動ができればよいと考えている。</p>
山田副委員長	<p>他はよろしいか。</p> <p>今回は、いろんな方の意見を出していただき本当によかったと思う。今回のことを含めチームの活動をまた進めていただくこと、茨木の認知症施策がさらに進んでいくことを、皆で願っているし進めていくようにしていきたいと思う。</p>
事務局（笹川）	<p>2 その他 今後の予定・連絡事項等</p> <p>次回の開催は、改めて連絡する。</p> <p>閉会</p>